【授業科目】臨床病態学Ⅱ　Internal Medicine Ⅱ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	２年次 後　期	必　修	2	30	講　義	なし	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／臨床病態学 Ⅱでは、腎・尿路・生殖器疾患、代謝・栄養障害、内分泌疾患、精神・神経疾患(認知症を含む)、運動器疾患、感覚器疾患、皮膚疾患、乳腺疾患、中毒、染色体・遺伝子異常症についての病態生理、症候、検査所見などについて教授する。本科目では、特に疾患における臨床検査値に異常をもたらす機構について理解することが重要であり、系統別に主要疾患の病因、発生機序、症候、診断過程、治療について教授する。各種疾患の病態を体系的にかつ疾患と臨床検査との関わりについて理解させ、各種検査データから、患者の病態を把握、評価させ、適切な検査データを提供することにより医療チームの一員として臨床に対して支援する能力を養わさせる事を目標とする。今後、臨床検査技師が患者に検査説明を行う機会も増えるため、本科目の十分な理解が必要不可欠となる。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出された課題・レポートにはコメントする事でフィードバックを行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①腎・尿路・生殖器疾患、代謝・栄養障害、内分泌疾患、精神・神経疾患(認知症を含む)、運動器疾 患、感覚器疾患、皮膚疾患、乳腺疾患、中毒、染色体・遺伝子異常症において、各疾患における病態生理、症候などをよく把握した上で、どのような検査所見に異常がみられるか理解できる。 ②さらに、疾患を診断するだけでなく、治療によって検査所見がどのように推移するかも含め理解できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	･本科目は、これまで履修した生化学検査、血液学検査、微生物学検査、生理学検査などを含んだ横断的な見方を必要とする。疾患を診断するのに、各疾患にはどのような検査が必要か把握し、どのような検査所見が得られるか理解することが、正確な検査を行うことと関係する。 ･各疾患に関して十分な授業時間が得られないため、各自で教科書、プリントをよく読んでおくこと。(60分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 01 回　腎・尿路・生殖器疾患 1 第 02 回　腎・尿路・生殖器疾患 2 第 03 回　代謝・栄養障害 1 第 04 回　代謝・栄養障害 2 第 05 回　内分泌疾患 1 第 06 回　内分泌疾患 2 第 07 回　精神・神経疾患(認知症を含む) 1 第 08 回　精神・神経疾患(認知症を含む) 2 第 09 回　運動器疾患 第 10 回　感覚器疾患 第 11 回　皮膚疾患 第 12 回　乳腺疾患 第 13 回　中毒 第 14 回　染色体・遺伝子異常症 第 15 回　まとめ
全て 山口	
評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
教科書	『看護のための臨床病態学』 南山堂
参考書等	病気がみえる シリーズ （メディックメディア）
学生への メッセージ	・本科目が良く理解できるほど、臨床検査への関心、興味もいっそう増大するはずである。 ・今後、臨床検査技師が患者に検査説明を行う機会も増えるため、本科目に対する十分な理解が必要となる。